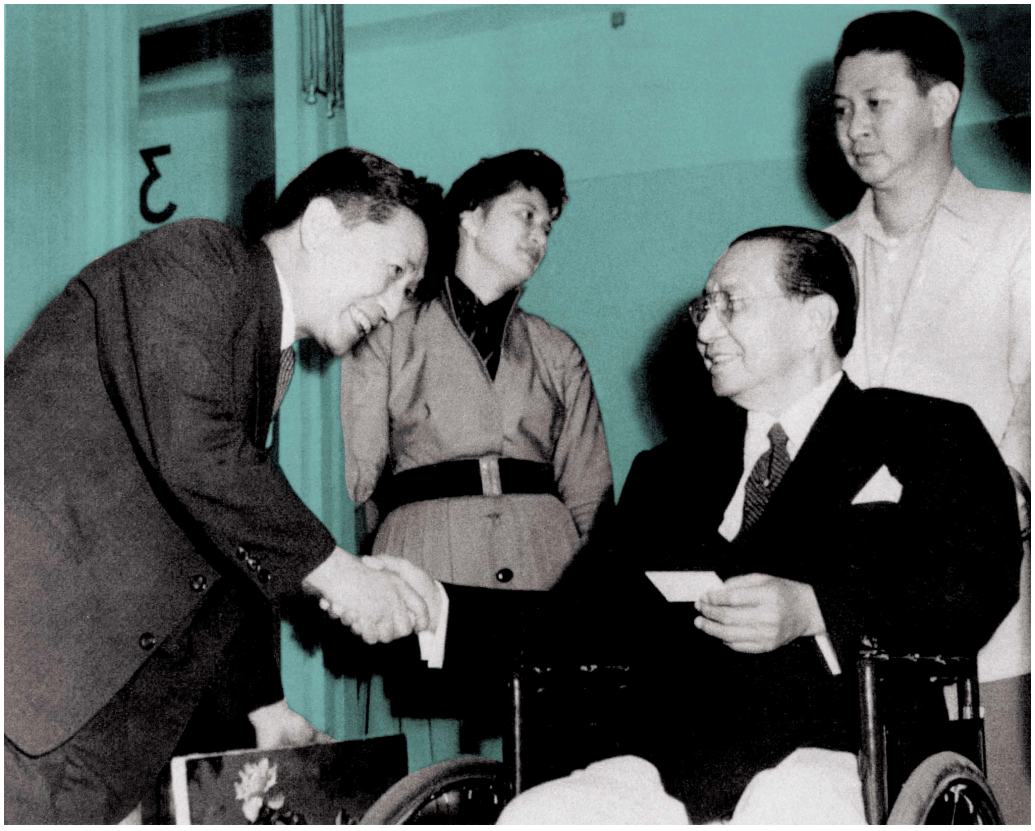
キリノ元大統領による戦犯赦免
そしてその後のことについて
アンケートで多く寄せられる質問にお答えします

戦犯赦免と、その後について―



フィリピンのキリノ元大統領（右）と握手する加納莞蕾（1955年）

Q. 赦免された戦犯105名の方や、その家族の方の声などは届いていませんか？（感謝、思い等）

横浜港に帰った戦犯たち

巣鴨刑務所から解放された戦犯たち

A. 届いていません。

赦免され帰国された戦犯の人たちは、莞蕾が大統領はじめいろいろな方に自分の考え（赦すことから平和がスタートする）を伝えるべく書簡を書き続けたことは、ご存知ないのです。 後に莞蕾は「私の書簡は助命嘆願というより『平和への提言』であった」と話しています。

Q. 古瀬貴季（ふるせたけすえ）元海軍少将は、赦（ゆる）されたのですか？

A. 赦されました。

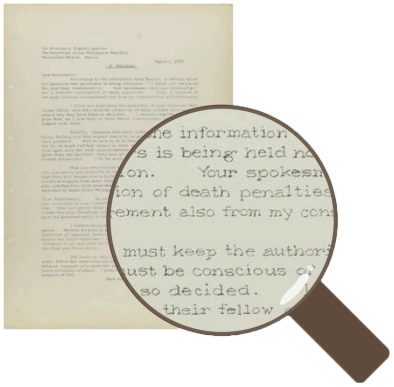
加納莞蕾が助命嘆願運動をするきっかけとなった人物・古瀬貴季。古瀬さんもキリノ元大統領の赦免により、他の戦犯たちとともに横浜港に帰ってこられました。
しかしその後は東京で過ごされ、ふるさとの島根には帰ってこられませんでした。

古瀬貴季元海軍少将

Q. 嘆願書はどうやって書いたのか？タイプで打ったような正確さ。

A. 莞蕾が文章を書き、英文に翻訳してもらったものをガリ版・謄写版で作成しました。

多くの要人に向けての嘆願書は、英文、そしてタイプ印字されたものでなければ読んでもらえませんでした。タイプライターもタイピストを雇う資金もなかった当時、莞蕾が文章を書き、それを布部中学校で英語教師をしていた村上光隆氏が翻訳し、ガリ版で印刷をしました。送った嘆願書は約300通におよびます。



ガリ版で作成された英文嘆願書

実際に使用していたガリ版・謄写版

キリノ元大統領による赦免後・・・

「戦犯の赦免は『平和へのスタート』
われわれは 平和を築かなければならない のだ」

戦犯問題解決後も、莞蕾は「キリノ大統領が日本人戦犯を赦免したことで、われわれは大統領から大きな課題を与えられたのだ」と受け止め、平和を希求し続けました。

「永遠の平和は、次の世代に求め、
これを子どもたちに期待せねばならぬ。」

（1974 年記　書簡の中から抜粋）

加納莞蕾

そのほか、疑問点や気になる点などございましたら、お気軽にご質問ください！